

令和 3 年度 学校評価報告書										益田翔陽高等学校		学校関係者評価		
A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である										評価値 A,B,C				
重点目標	分野	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等					
自律 自立 健康	生徒指導部	爽やかな挨拶が交わるようになる	生徒会、風紀委員会、教職員を中心に、日頃から積極的に爽やかな挨拶を交わす。PTAと協力し、6月と10月にあいさつ運動を行う。	日頃から学校内・外で、爽やかな挨拶を交わしていると答えた生徒の割合と爽やかな挨拶を交わしていると答えた教職員の割合	A 97%以上	B 95%以上	C 95%未満	B 95.5%	学校内で挨拶をする生徒は多いが元気がなく、素っ気ない生徒が多く、「爽やかな挨拶」となると物足りない。次年度はPTAと協力し、全教職員であいさつ運動や日常の生活場面を通して、自ら進んで爽やかな挨拶を示していきたい。					
		社会に出ても通用する頭髮服装で学校生活を過ごす	検査内容と基準を理解する。定期的に頭髮・服装検査を実施し、事後指導を徹底する。全教職員で日常的に指導を行う。	検査内容と基準を理解した上で頭髮・服装規定を守っていると答えた生徒・保護者と、検査内容と基準を理解した上で日頃の指導ができたと答えた教員の割合と頭髮服装検査で再検査にならなかった生徒の割合	A 90%以上	B 80%以上	C 80%未満	A 91.6%	風紀委員会により頭髮の基準を示すことができ、違反する生徒が減り、再指導もしやすくなった。次年度は各家庭での指導を期待して、保護者への周知をさらに進めていく。また、全教職員による日常指導を継続していきたい。					
	保健相談部	健康教育の推進	講演会の実施や保健通信を通じて、保健情報や健康情報を発信する。	保健・教育相談に関して、実態に即した情報が発信されている。学校は保健便りなどで感染症、健康診断、SC来校案内などの保健情報を提供していると答えた教職員の割合。	A 90%以上	B 85%以上	C 85%未満	A	教職員95.7%生徒94.8%今後も実態に即した情報発信に努めていきたい。					
		清掃活動の徹底	生徒保健委員会からの呼びかけもふまえ、時間いっぱい清掃することを徹底する。	掃除監督として時間いっぱい清掃指導を行っている、掃除時間を守って掃除していると答えた教職員・生徒の割合。	A 90%以上	B 85%以上	C 85%未満	A	教職員93.8%生徒96.0%掃除に関する生徒保健委員会からの呼びかけはしたが、やはりコロナ中心になった。今後は清掃についての呼びかけも行っていきたい。					
	図書研修部	図書館の利用促進	図書館利用の促進のために、利用しやすい図書館を整備し、図書館だよりや新刊案内などの広報活動を充実させる。	図書館利用促進のための取り組みを行っている、と答えた生徒・教職員の割合	A 85%以上	B 80%以上	C 80%未満	A 教員95.8%生88.1%	今年度も引き続き、新刊図書、リクエスト図書の導入等により図書館の整備を進めてきた。また、図書館だよりや新刊案内、図書委員会の活動による広報活動も行ってきたが、より充実させていきたい。					
		人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの特徴に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供していると答えた生徒・教職員の割合	A 90%以上	B 80%以上	C 80%未満	A 教員93.3%生97.1%	HRIについて、各学年に身につけさせたい資質や知識について取り上げ、実施できたが、HR前後の教職員研修の時間が十分に確保できなかった。新型コロナウイルス等の影響で校外の研修は縮小傾向にあるので、今後は校内研修の充実を図り、研修の内容・時期等を検討していきたい。					
	寮務部	規律ある寮生活を確立する。 1. 時間を守る 2. 整理・整頓をする	寮の生活時程に従って行動する中で清掃および片付けを丁寧にするように指導する。	寮生活において時間を守り、整理・整頓ができたと答えた生徒、およびその指導ができたと答えた教員の割合。	A 95%以上	B 90%以上	C 90%未満	B 93%	生徒および教員のアンケート結果では、時間と寮内のルールに関してはしっかりと守られていた。整理・整頓の点が少なくていなかった。この点に関してしっかりと指導の必要ではなかったか。					
		電子機械科	工業人として求められる人格形成を支援する	整理・整頓・清潔・清掃を意識し、安全で効率的な作業を実行できるとともに提出物の期限を守る生徒を育てる	①実習棟や教室等の状況及び整理・整頓・清潔・清掃に関するアンケート結果	A 85%以上	B 75%以上	C 75%未満	A 88.6%	実習や課題研究後の実習棟の片付け等は大体できているが、自分の靴やスリッパなどの管理やロッカーの整理整頓ができていない生徒もいる。今後も意識を高めていけるように継続的に指導していきたい。				
					②期限内にレポート提出した生徒の割合	A 85%以上	B 75%以上	C 75%未満	A 92.1%	同じ生徒が毎回提出状況が悪かった。継続的に指導はしているが、まだまだ改善はしていない。「期限を守る」意識を高め、力を身につけていけるよう継続的な指導が必要。優先順位を考えさせ放課後等も使って指導していきたい。				
		電気科	工業人としての心構えの育成	授業準備、服装、頭髮及びレポート等の提出期限を徹底する。	服装頭髮検査で規定が守れている生徒の割合	A 90%以上	B 85%以上	C 85%未満	A 94.0%	おおむね良好である。生徒指導部と風紀委員との話し合いで生徒たちの自主性が芽生え、結果的によい方向に向いていると思う。				
					期限内にレポート提出した生徒の割合	A 90%以上	B 85%以上	C 85%未満	A 92.3%	期限内にレポート提出した生徒の割合 3年生 90.3% 2年生 90.6% 1年生 97.1%平均92.3% 1年生の提出状況が大変よい。				
生物学科環境	基本的な生活習慣を身に付ける	挨拶や正しい言葉遣いができ、服装規定を守るように指導する	校内外で挨拶をしている、服装規定を守っている、正しい言葉遣いをしていると答えた生徒の割合。	A 90%以上	B 85%以上	C 85%未満	A 94.7%	挨拶ができていると思う生徒は98% 頭髮、服装の規定を守っていると思う生徒98%、正しい言葉遣いができていると思う生徒88%						
総合学科	社会で通用するマナーを身につけた生徒	集団や社会の一員として、モラルある言動や身だしなみがきちんとでき、挨拶や言葉遣いがしっかりできる。	正しい日常の服装・頭髮の基準が守られていたと答えた生徒の割合。	A 95%以上	B 90%以上	C 90%未満	A	生徒アンケートの結果、規準を守ることができたと回答した生徒の割合は97.3%であった。(できた75.9%、おおむねできた21.4%、ややできなかった0.9%、できなかった1.8%)						
魅力化 地域連携 情報提供	総務部	広報活動の充実	学校通信・学校新聞内容の充実、さくらメール発信とホームページの更新を積極的に行う。	学校通信・学校新聞の発行、メール配信、ホームページの更新が充分に行われたと答えた保護者・教職員の割合	A 95%以上	B 90%以上	C 90%未満	B	昨年以上にホームページの内容の充実を図り、更新も行うことができた。しかし、学科や部活動によって更新状況に差があるため、コロナ禍で学校行事が制限される部分を、補えるツールとして活用していきたい。					
	教務部	生徒募集の推進	中高連絡会、進路説明会、オープンスクールの充実	入学して実際にやってみたい、関心が強くなったと答えた中学生の割合。	A 90%以上	B 80%以上	C 80%未満	B 85%	1回目が83%、2回目が86%で高い評価であった。結果として、出願者が1科で定員を超え、高く評価できる。次年度は、更に改善を加えたい。					
	農場部	魅力ある農業教育の実践	地域連携・貢献事業、校内連携活動を推進する	実施回数 40回	A 40回以上	B 35回以上	C 35回未満	A 95回以上	地域連携課題研究50回以上 コンソーシアム30回以上 出前授業8回 農業クラブ・翔陽ファーム7回					
授業改善 の推進	教務部	授業力の向上と基礎学力の育成	「翔陽スタンダード」の定着をより一層図ることで、全教職員の授業改善を目指す。	生徒による「授業アンケート」の項目「授業内容について」の平均点。	A 3.5点以上	B 3.0点以上	C 3.0点未満	B 3.46点	昨年度と比べ、学校全体の「翔陽スタンダード」を徹底させる雰囲気、下がっているかもしれない。次年度に向け改善策を検討したい。					
	電子機械	学習意欲の向上	専門科目において基礎的な知識と技能の定着を図るとともに、資格取得に積極的に挑戦させ、多くの成果・成功を体験させ、学習意欲を向上させる。	資格検定の合格率および授業態度に関するアンケート結果	A 85%以上	B 75%以上	C 75%未満	資格:C 48.8% 授業:B 81.0%	放課後補習では部活動との兼ね合いもあるが、積極的に挑戦する生徒が増えている。受験に満足せず合格率も高まる状況を作っていきたい。授業態度は継続的な指導が必要である。					
	生物学環境	基礎学力の向上	個々の進路の実現のため、資格取得をはじめとする学習指導を充実する。	資格取得のための指導や個別指導、試験前の居残り学習や補習を行ったと答えた生徒の割合。	A 90%以上	B 85%以上	C 85%未満	B 85.1%	実際に1つ以上資格取得をした生徒は60.5%であった。生徒自身の資格取得や学習に積極的に取り組んだと評価する生徒は85.1%であった。今後このギャップを縮めたい。					
	総合学科	専門知識や技能の向上を図り進路実現にチャレンジする生徒	生徒個々の能力、資質を十分に発揮させるとともに、これらを進路選択、人生設計に関連づけることができる態度を育成する。	資格、検定に2つ以上取得したと答えた生徒の割合。	A 80%以上	B 75%以上	C 75%未満	C	2つ以上取得した生徒は73.2%であった。(1年100%、2年70.0%、52.6%)初級程度の資格取得には積極的だが合格者をより上級試験への挑戦に誘うことが今後の課題である。					
進路指導 の充実	進路指導部	進路保障	求人情報・進学情報を迅速にクラスに伝達する。	進路情報が迅速に伝わったという教員・生徒の割合	A 90%以上	B 80%以上	C 80%未満	A	教員95.8%、生徒91.3%教員の共通フォルダに、求人情報・指定校情報、訪問された企業や学校からの情報、および合否情報を迅速にアップすることができた。進路だよりを各学期に4回発行し情報を提供することができた。					
			生徒が希望する受験先を確保する。	希望する企業・学校に内定・合格することが出来たという3年生の割合	A ##	B 90%以上	C 90%未満	B	3年生94.2%求人情報、指定校情報、入試方法など担任と連携して情報提供ができた。コロナ禍であるが、昨年度よりも多い求人票、また生徒の希望にそうよう新規の求人票もいただくことができた。					
	農場部	生徒の進路意識の向上	郷土を愛し、地域を支える生徒の育成	地元就職者率60%以上(A)、50%以上(B)、50%以下(C)	A 60%以上	B 50%以上	C 50%未満	A 69.4%	A科10名／17名(58.8%)、G科(食品系列)4名／5名(80%)					
			資格取得率の向上	各種検定等の資格取得者の割合が80%以上(A)、70%以上(B)、70%未満(C)	A 80%以上	B 70%以上	C 70%未満	B 71.9%	G1:100%、G2(食品):90%、G3(食品):60%A1:71.4%、A2:48.7%、A3:61.5%					
電気科	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する	資格、検定に向けて真剣に取り組んだ生徒の割合	A 85%以上	B 75%以上	C 74%未満	A 92.0%	第2種電気工事士の試験は例年通りにもどり、補習等も平常にもどし実施した。合格率は92%とよい結果が出た。資格取得に頑張っているという満足度は微弱ながら減少した。(91.8%⇒82.6%)						
										B	・子どもの思いは保護者の影響が大きい。本校の進路先について情報提供し、中学校や地域に対して出口を明確に知らせて学校のブランド化をはかってほしい。 ・高専の求人が増えているのは、実践的な人材が求められているからである。生徒にどんな力をつけさせるのか、学校の在り方にもかかわってくるので、しっかり検討してほしい。			